

防災マニュアル

地震

火事

台風

【事業所名】

放課後等デイサービス心音〜ころん〜



地震発生時

1 机の下にもぐる

第一に利用者、職員の身の安全を確保する。
あわてて外に飛び出さない。



2 誰がどこにいるかを把握する。

2階、トイレ、施設外活動（散歩、公園など）等点検し、全員の所在を確認する。



3 施設の被害状況（危険箇所）の把握と対応。



4 安全確保し、家族及び関係者へ連絡（電話、メール配信）

「有事の際は送迎に出ず、避難先で家族の迎えを待つ」など、事前に取り決めし、個別対応の困難が予想されることを家族及び関係者に周知しておくことが必要。



5 状況により、地域の避難所へ避難する。

利用者の着るもの、履物に不備がないかを確認し、大きな公園や広場、近隣の学校等避難所へ避難する。

家族に連絡がつく携帯電話を忘れずに持つていく。

職員は必ず複数対応とする。



【地震の心得 10カ条】

- ・ まずわが身の安全を図る
地震が発生したら、まず丈夫なテーブル、机などの下に身をかくしてしばらく様子を見る。
- ・ すばやく火の始末
大地震で最も恐ろしいのは火災。地震を感じたら落ち着いて、冷静にすばやく火の始末。
- ・ 火が出たらまず消火
万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。周囲に声をかけあい皆で協力して初期消火に努める。
- ・ あわてて外に飛び出ない
屋外は屋根瓦、ブロック塀、ガラスの飛散など危険がいっぱい。揺れがおさまったら外の様子を見て、落ち着いて行動する。（外へ出るときは、可能な限り帽子やヘルメットや頭巾などをかぶって出る）
- ・ 危険な場所には近寄らない
狭い路地、塀ぎわ、ブロック塀の傍など、危険な場所にいるときは急いで離れる。
- ・ がけ崩れ、津波などに注意
がけ崩れ、津波など危険区域では、すばやく安全な場所に避難する。
- ・ 正しい情報で行動
テレビやラジオ、防災機関からの情報で行動し、デマに惑わされないよう注意する。
- ・ 人の集まる場所では冷静な行動を
あわてて出口や階段に殺到せず、係員の指示に従う。
- ・ 避難は徒歩で、持ち物は最小限に
避難は自動車、自転車は使わず徒歩で。また、身軽に行動できるよう荷物は必要最小限にとどめ、背負うなどして両手をあける。
- ・ 自動車は左に寄せて停車
カーラジオの情報に注意し、勝手な走行はしない。また、走行できない場合は左に寄せて停車し、エンジンを止める。車を離れて避難する時は、キーはつけたままで、ドアロックもしない。



火事発生時

1 初期消火と通報

第一に利用者、職員の身の安全を確保する。
あわてずに119番通報し、近隣住民にも知らせる。



119



2 避難路を確保し、全員で施設外へ避難する

2階、トイレ、施設外活動（散歩、公園など）等点検し、全員の所在を確認する。



3 姿勢を低くして避難する

煙を吸い込まないように、有ればハンカチで口を押えて姿勢を低くする。



4 安全確保し、家族及び関係者へ連絡（電話、メール配信）

「有事の際は送迎に出ず、避難先で家族の迎えを待つ」など、事前に取り決めし、個別対応の困難が予想されることを家族及び関係者に周知しておくことが必要。

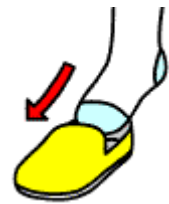


5 状況により地域の避難所へ避難する。

利用者の着るもの、履物に不備がないかを確認し、大きな公園や広場、近隣の学校等避難所へ避難する。

家族に連絡がつく携帯電話を忘れずに持つていく。

職員は必ず複数対応とする。



【消防計画について】

通報連絡担当者	藤波 千恵
初期消火担当者	岡部 拓海
避難誘導担当者	篠原 覚 仲木敦子
日常の自主検査の実施担当者	篠原 覚
定期の自主検査の実施担当者	藤波 千恵

【火気設備器具について】

- ① 火気設備器具の周辺は整理整頓を心がけ、可燃物を置かない。
- ② 火気設備器具は、常に監視できる状態で使用し、その場を離れる時は必ず消す。
- ③ 火気設備器具にある取扱い上の注意事項を守り、故障又は破損したままで使用しない。
- ④ 地震時には、火気設備器具の使用を中止する。
- ⑤ 終業時には、火気設備器具の点検を行い、安全確認をする。

【喫煙について】

- ① 喫煙する場合は所定の場所で行うこと。

【避難施設の維持管理について】

- ① 避難口、廊下、階段、避難道路には避難の障害となる設備を設けたり物品を置いたりしない。
- ② 扉の付近には、常に閉鎖の障害となる物品は置かない。

【放火防止対策について】

- ① 建物の外周部及び敷地内には、ダンボール等の可燃物を放置しない。
- ② 事務所、倉庫、更衣室などを使用しない時は、施錠しておく。
- ③ ゴミ類の廃棄可燃物は、定められた時間に、定められた場所に持って行く。
- ④ 事業所外の不審者に対しては、注意を払う。

【火災時対応】

- ① 通報連絡
 - ・ 119番通報します（火災か救急かの種別、所在、目標、火災の内容など）
- ② 消火活動
 - ・ 消火器を使って消火活動を行う。
- ③ 避難誘導
 - ・ 避難口（出入り口）を開放し、避難口まで利用者を誘導する。



台風・風水害

風水害対策は気象情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオ・テレビ・電話などで気象情報を正確につかむ ・ 被害が予想される時や災害が発生した時は、市や消防署などが避難や災害の状況などに関する広報を行うので注意して聞き取る。
屋外の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓や雨戸・アンテナ・窓ガラスなどを必要に応じて補強する ・ ベランダの植木や小物など飛ばされやすいものを取り込む ・ 床上浸水の恐れがある場合は、家財道具などを移動する
屋内の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する ・ 気象情報を注意深く聞く ・ 断水に備えて飲料水を確保する ・ 高齢者、障害者、子供を安全な場所へ移動させる
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火の始末、戸締りを確実に行う ・ 全員で避難する（外出者がいれば必ずメモに残す）

避難の目安

河川やその周辺

- ・ 川の水かさが増したり、流れが速くなっている
- ・ 川が「ゴーゴー」と音を立てて流れたり、川の中から「ゴロゴロ」と音がしている
- ・ 道路の側溝などから大量の水が溢れている
- ・ がけ地沿いの川の流れがひどく濁ったり、流れの中に流木や大きな石が混じっている
- ・ 水位観測所の水位が警戒水位を超えそうになっている

がけとその周辺

- ・ 斜面から土砂が落ち始めたり、落石が発生している
- ・ 斜面から水が吹き出したり、流れ出していた水が急に止まった時
- ・ 斜面に亀裂ができたり、地鳴りが聞こえた時

時間の雨量と雨の降り方（目安）

時間の雨量	雨の降り方（目安）
8～15 ミリ	雨の降る音が聞こえる
15～20 ミリ	地面一面水溜り。雨音で話声が聞き取りにくい
20～30 ミリ	どしゃ降り。側溝がたちまちあふれる
30～50 ミリ	バケツをひっくり返したような雨
50 ミリ以上	滝のように降る

風と被害（目安）

時間の雨量	雨の降り方（目安）
10m／毎秒	傘がさせない
15m／毎秒	看板やトタン板が飛び始める
20m／毎秒	小枝が折れる
25m／毎秒	瓦などが飛び、テレビアンテナが倒れる
30m／毎秒	雨戸がはずれ、家が倒れることもある

事業所緊急連絡網

※全従業員

